

知財DXを加速する：特許AIツール比較と導入戦略ガイド

現在、知財業務は単純なチャット型AIから、業務フローを自律的に完遂する「AIエージェント」へと進化しています。
本資料では、世界最大級のデータを誇るPatsnap Eurekaと、日本の実務・法規に特化した国産ツール群を比較し、最適な導入基準を提示します。

特徴別：知財AIツールの3大カテゴリー

グローバル自律型エージェント
(Patsnap Eureka)



35億件の多言語データに基づき、検索式不要で世界規模の調査を自律実行。

大規模査読・可視化
(Patentfield AIR)



最大1万件の母集団を一括処理し、13種以上のパテントマップへ即座に反映。

国内実務・法制適合型
(サマリア / GenzoAI 等)



日本の審査基準や弁理士法に最適化され、拒絶理由対応や明細書作成を強力支援。

組織属性別の推奨選定フレームワーク

グローバル大手・
多国籍企業



グローバル大手・
多国籍企業
Patsnapを基盤とし、
国内実務用に国産ツ
ールを併用するハイ
ブリッド構成を推奨。

中堅製造業・
知財専任部署



中堅製造業・
知財専任部署
社内ノウハウ直結型
のGenzoAIやサマリ
アで、内製化による
コスト削減を重視。

スタートアップ・
特許事務所



スタートアップ・
特許事務所
低コストなTokkyoAI
や、法制適合設計の
サマリアでリスクを
抑えた導入を推奨。

ツール導入による定量的メリットの比較



従来の手法 (外部委託等)



先行技術調査時間: 数日～数週間



FTO調査コスト: 1件
約75万円～150万円



全文査読工数: 約20時間

削減



AIツール導入後



先行技術調査時間: 数分 (自律完結)

FTO調査コスト: 1件 約3万円 (最大90%削減)

全文査読工数: 数分 (AIスクリーニング)